

- ◇開催日時 2018年8月7日(火)12時45分～15時30分
- ◇会場 水生生物観察会 音無川蜻蛉の滝
授業検討会 森と水の源流館
- ◇参加者 森井(田原小中)、圓山(飛鳥小)、早崎・赤松・
中山(和歌山市立有功東小)、川崎(川上小)、
尾上・古山・上西・木村(源流館)、
佐藤(川上村役場)、雲雀(奈良教育大3回生)、
北村・中澤(奈良教育大)



◇内容

1. 水生生物観察会

観察シートの解説

生きものは住みたいところに住んでいる。

昔の環境に近い形にすることで、生物は戻ってくる。

その地域の環境の良さを追求する

高齢者への聞き取り 川の利用、食べていた川魚調べ、などの聞き取り

観察シートの項目が聞き取りポイントとなる。

地域の川を好きになってもらうことがまず重要。その中から生物に関心を持つ子が表れてくる。

子どもと川の距離を身近くすることがポイント

いい川だと子どもが認識するポイント

よさも多様であっていい(水質調査オンリーではない)

生物の多様性、いこいの場、遊びの場、利用の方法、運搬、流通、親しみやすさ

感覚的なよさ 涼しさ、気持ちがいい、 言語化することで明確に意識される

生態系(生物種、生態系、遺伝子)の多様性

音無川と佐保川は生態系の多様性

万葉集—ツカノマ

ガサガサどり

注意事項

- ・川底の石の上などよく滑るので、観察地点までは川に入れないこと
- ・それぞれの間隔は2メートル以上あける
- ・特に網を使うときは、柄の部分でケガしないように注意させる
- ・水深はくるぶしより上に行くところには行かないように
- ・全体を見る担当が一人は必要
- ・日射病や熱中症に注意する。
- ・時間は15分～30分が限界
- ・長靴かマリンシューズがいい。ガサガサどるときにガラスがある場合もある。
- ・クツの場合は、クツの上から布の靴下をはく
- ・生きものだけバケツに入れる。砂や石は入れないようにする。

- ・都市河川の場合、ゴミ、空き缶などがあるため、軍手やゴム手袋がいることもある。
- ・急に水温が下がってきたら、流量が増えるので上がった方がいい。

2. 指導案の検討

「ダムカレーから学ぶ「水源地の森」」川上小：川崎貴寛

- ・川上村のダムカレーが導入
 - 3つのダムがある 大滝ダム・大迫ダム・緑のダム
- ・森林の果たすダムの役割の学習
- ・川上村はなぜ水源地の森を購入したのか
- ・川上宣言
- ・学習前の児童の姿と比較して学習後の児童のビジョンは（森井）
 - 12月に総合の発表会がある。地域の人も見に来る。それにむけて総合を頑張ろうという意欲がある。
 - 1学期：林業の特徴 林業家を招いた学習 森林が果たす役割：光合成、土壌の保全
 - 学習後：川上村を支えていこうという当事者意識、川上村を大事にする気持ちを高めたい
- ・ダムカレーをつくられた人の思いにもふれるといい。地域の子の思いを代表している。
- ・時間数は5時間でできるか？（赤松）
 - 総合でもっと時間をかけてやってはどうか。子どもの疑問からダムカレーの理由を考えさせる
 - これがぼくたちのダムカレー をつくってみる
 - 4人だとできるが、深まりにかけられることが多い。
 - 川上村の人がされている「きれいな水をながす」行動を聞き取り調査をすることで、当事者意識を育てることになる。
 - 行政がしていること（水源地の森の購入、川上宣言）だけでなく、村民の行動
 - 水源地の森と他の森の違い
 - 生物多様性 色 風景 コケ、土、よさは多様であっていい それを意識できることが大切
 - 川上村の森林は当たり前ではない。特別な環境であることを子どもから発信していければ
 - 川上村のダムカレーのポイントはブロッコリーと言えらる子どもに。
 - ブロッコリーが大量にあるダムカレーをデザインできるといい。
 - ダムカレーの認定基準をつくった人の思い（地域振興課）



次回は9月2日（日）13時～